

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：34309

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10620

研究課題名（和文）グローバル化時代の看護人材確保－国際移動した日本人看護師の発掘と再獲得

研究課題名（英文）Considering the Future of Nursing in Japan -Securing Human Resources in the Age of Globalization

研究代表者

那須ダグバ 潤子（NASUDAGBA, Junko）

京都橘大学・看護学部・准教授

研究者番号：70554898

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：2020年度から2022年度、専門職者による検討会を複数回実施した。オーストラリア、カナダ、アメリカで働く日本人看護師の入国から就労までのプロセスを整理し、質問項目について検討を行った。2020年度は文献検討と資料収集を実施し、オーストラリアで日本人が看護師登録する方法についてまとめたほか、15名を対象にインタビューを実施した。2023年2月11日に開催した国際シンポジウムは44名が参加し、日本とオーストラリア、カナダ、アメリカの看護職場環境について議論した。参加者27名を対象としてアンケートを実施し、海外渡航理由等について調査を行った。これらの成果は近日中に学会誌に発表予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界では看護師不足が深刻化している。各国は学生獲得や自国で育成した看護師の再獲得に力を入れているが、それは看護が個人の人生経験や生活体験がケアの質に大きく影響する職業であるためである。本研究では、オーストラリア、アメリカ、カナダなど英語圏に国際移動した日本人看護師を対象に調査を行い、「グローバル人材」としての可能性を探るとともに、そうした看護師が日本に戻り働きたいと考える職務を明らかにした。世界を経験した日本人看護師が戻って働きたいほど魅力的だと考える看護現場は、日本で働くすべての看護師にとっても同様に魅力的な環境であり、グローバル時代における未来の看護人材確保に有用な示唆を提示した。

研究成果の概要（英文）：From FY2020 to FY2022, several review meetings were held by experts to discuss the following; 1) migration process or the related issues of Japanese nurses working in Australia, Canada, and the United States, 2) interview guidelines, and 3) survey questionnaires. In FY2020, A literature review and data collection on how Japanese nurses register as registered/enrolled nurses in Australia. In addition, interviews were conducted with 15 participants.

An international symposium was held on February 11, 2023, with 44 participants. At that symposium, the nursing workplace environment in Japan, Australia, Canada, and the United States was discussed. A questionnaire was sent online, surveying about their reasons for traveling abroad and so on, and 27 symposium participants answered. These results will be published in an academic journal in the near future.

研究分野：国際看護

キーワード：日本人看護師 国際移動 グローバル化 人材確保 オーストラリア

1. 研究開始当初の背景

アジアの先進国である日本では、他に例をみないスピードで少子高齢化が進んでいる。日本では看護師不足が深刻化する将来を見据え、潜在看護師の発掘、再就業支援などが進められてきたが、毎年1割前後の病院看護職員が離職しているのが現状である(日本看護協会, 2018)。離職者の中には国際移動を行う看護師もいるはずであるが、厚生労働省では看護師免許証の英訳文証明書等の発行数を把握しているのみで、日本看護協会でも出入国統計は把握されておらず、日本から出た看護師については情報がほとんど存在しないのが現状である。

日本人看護師が国際移動を行うには、十分な語学力だけでなく、移動先の国における生活、労働、教育などに関する知識と理解力が必要となる。異なる文化的背景、価値観など、多様性への対応力も求められるため、国際移動を選択するのは比較的年齢の低い層であり、多くの困難を超える力のある看護師である。国際移動した看護師が海外で培った技術や知識が効果的に用いられることで、看護師の母国である日本の資源となりうる(Buchan & Aiken, 2008)。看護人材が不足する日本にとって、国際移動する自国の看護師を発掘し、人材確保へとつなげることは、多角的な視点での看護人材確保政策として非常に重要であるといえる。

「グローバル人材」の要素として、日本人としてのアイデンティティ、語学力、コミュニケーション能力、異文化理解の精神などがあげられているが、日本で働く看護師の多くは語学に自信がなく、多様な背景を持つ外国人患者に対応するための十分な知識や経験がないことが指摘されている。今後は在日・訪日外国人の増加が見込まれており、ますます多様化する看護現場においては、日本から国際移動した経験のある日本人看護師は、語学力のみならず異文化に対する理解力とコミュニケーション力をもって患者に対応する上で、「グローバル人材」としての活躍が期待できる人材である。「国際移動した日本人看護師」は、キャリア向上の機会とより良い労働環境を求めており、条件さえ整えば日本に帰ってもよいと考えている。オーストラリアなど英語圏の先進国では、日本の看護とは異なるシステムと多様な職務が存在する。世界を経験した日本人看護師が戻って働きたいほど魅力的だと考える看護現場は、日本で働くすべての看護師にとっても同様に魅力的な環境である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の看護現場で活躍できるグローバル人材としての「国際移動した日本人看護師」を発掘し、これらの看護師が日本に戻り働きたいと考える職務を明らかにすることである。

3. 研究の方法

本研究では、まず研究推進の基盤としてウェブサイトの構築を行い、研究対象者募集、ウェブ調査広報、セミナー告知および研究成果発信に用いる。2018年から2019年に行った調査結果をもとに、2020年度は文献検討と新たな資料収集を実施する。研究期間中、日本人看護師の国際移動に関連する専門職者による検討会およびインタビュー調査を実施する。最終年度である2022年度は日本人看護師を対象としたウェブ調査を実施する。さらに国際シンポジウムを開催して、本研究テーマを広く議論し、未来の看護への提言と研究成果の公開を行う。

4. 研究成果

1) 専門職者による検討会

2020年度から2022年度にかけて複数回にわたり研究チームでの討議および専門職者による検討会を開催した。オーストラリア、カナダ、アメリカで看護師として働く日本人看護師の入国から就労までのプロセス、がどのようなプロセスを経て入国し、就労に至るのかを再整理した。さらに、文献検討等の結果をふまえて、インタビュー・ガイドラインについて検討したほか、質問紙調査を実施するための質問項目についても検討を行った。

2) インタビュー調査

2018年から2019年に行った調査の結果をもとに、2020年度は文献検討と新たな資料収集を実施した。オーストラリア政府発表の統計資料などをもとにオーストラリアにおける日本人看護師の動きを推測し、オーストラリアで日本人が看護師登録する方法、それぞれの利点、欠点についてまとめた。これをもとに調査項目を作成し、当初の予定通り、ホームページを活用してインタビュー調査を実施した。日本人看護師が多く利用するメルボルンの留学斡旋業者が運営するブログで告知した上で、スノーボールサンプリング法により15名の対象者を集めた。インタビューは、オーストラリア国内では直接対面でのインタビュー、日本国内では直接対面またはオンラインによる対面にて、それぞれ1時間程度をかけて実施した。入念な文献レビューに基づいて5つの質問項目から構成されるインタビューガイドを作成した半構造化面接法を用い、データは主題分析法を用いて分析した(Braun & Clerk, 2006)。この方法を用いた理由は、インタビュー対象者の経験や考えが、その言葉と記述に忠実に表現されるためである。また、分析を進める上で分析者の哲学的立ち位置を問題とせず、柔軟にそのトピックのテーマを抽出するこ

とを可能とするためである (Boyatzis, 1998; Clark & Braun, 2013; Maguire & Brid Delahunt, 2017)。内容詳細については現在執筆中であり、近日中に学会誌に投稿予定である。

3) アンケート調査

2023年2月11日に実施した国際シンポジウム参加者を対象に、看護分野における国際的な発展および国際教育における需要を把握するため、アンケートを実施した。本調査で明らかにしたい課題としては、どんな人が、なぜ海外へ行くのか、海外へ、何を求めて行くのか、参加者は、渡航経験があるのか、海外で働く場合、どれくらい看護を経験してから行くのか、である。アンケート回答者は27名であり、うち27名(100%)が女性であった。詳細については現在執筆中であり、近日中に学会誌に投稿予定である。以下、調査課題に沿った結果概要を示す。

【どんな人が、なぜ海外へ行くのか、参加者は、渡航経験があるのか】

参加者の大半が「何度もある」または「数回ある」と回答しており、「全くない」と回答したのは、10代が3名、20代が1名で、4名とも大学生であった。また、仕事(長期・短期)で行った経験のあるのは9名であった。

【海外へ、何を求めて行くのか】

海外に行きたいと思う理由は「チャレンジ・挑戦」が最も多く次いで「目標達成」が多かった。また、働く場合には、JICAやNGOなど何らかの組織に属して働きたいと考えている人が多かった。英語圏の希望が大半を60%以上を占め、先進国を希望する人は50%以上いた。

【海外で働く場合、どれくらい看護を経験してから行くのか】

設問から読み解くことが難しいという結果となった。

【その他】

海外に渡航する際の不安な要素としては「言語」が最も多く、次いで「治安」が多かった。

4) 国際シンポジウム

国際シンポジウム告知およびシンポジウム参加者募集およびウェブ調査参加のためのアクセスリンク掲示はホームページ上で行った。2023年2月11日に国際シンポジウムを実施し、44名の参加者を得た。国際移動した日本人看護師が日本に戻り働きたいと考える、魅力ある職場環境とは何かについて、オーストラリア、カナダ、アメリカと日本の比較から議論を行った。当日音声を逐語録にしたうえで、現在は学会誌に掲載するための報告書を作成している段階である。近日中に学会誌で発表する予定である。以下、国際シンポジウムに関する広報および掲示媒体を示す。

【ホームページ】

那須ダグバ研究室「グローバル看護」<https://nasudagba.jp/globalkango/>

【国際シンポジウム】

国際地域看護研究会・那須ダグバ研究室共催国際シンポジウム「日本で働く看護師にとって魅力的な働く環境について考えよう」

https://nasudagba.jp/wp-content/themes/nasudagba/pdf/symposiumA4_p1-4.pdf

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 市川徳子、那須ダグバ潤子、藤井誠、李錦純、岩佐真也	4. 巻 23
2. 論文標題 オーストラリアで働く日本人看護師の入国ビザとオーストラリアにおける看護師登録	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 J. Nasu Dagba, N. Ichikawa, M. Fujii
2. 発表標題 Migration of Japanese nurses and their decision making towards working in Australia
3. 学会等名 International Council of Nurses Congress 2021（国際学会）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大野 ゆう子 (Ohno Yuko) (60183026)	大阪大学・大学院基礎工学研究科・特任教授（常勤） (14401)	
研究分担者	李 錦純 (Lee Kumsun) (60584191)	関西医科大学・看護学部・教授 (34417)	
研究分担者	岩佐 真也 (Iwasa Maya) (70405372)	静岡県立大学・看護学部・客員共同研究員 (23803)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤井 誠 (Fujii Makoto) (10803760)	大阪大学・大学院医学系研究科・特任准教授（常勤） (14401)	
研究分担者	市川 徳子 (Ichikawa Noriko) (70883411)	京都先端科学大学・健康医療学部・助教 (34303)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	本田 一馬 (Honda Kazuma)	Sydney Nursing School・Nurse Academic Lecturer	
研究協力者	山崎 優 (Yamazaki Yu)	General Manager	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際シンポジウム 日本で働く看護師にとって魅力的な働く環境について考えよう	開催年 2023年～2023年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
オーストラリア	University of Sydney		
米国	New York University		